

## 1 研究主題

「自己を見つめ、自己や他者との関わりを通し、  
よりよく生きようとする子どもの育成」

～「特別の教科 道徳」の授業づくりを通して～

## 2 研究主題設定の背景

本校の児童は、友達の良いところを見つけて伝えたり、友達に親切に優しく接したりすることのできる児童が多い。また、学校や学級で決められた仕事はきちんとすることのできる児童も多い。しかし、少しの失敗や困難で自信を失ったり、諦めたりする傾向がある。また、自分に自信がもてず失敗を恐れて物事に積極的に取り組むことができなかつたり、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを起こしたり、集団のために自ら働くことができなかつたりする児童も多く見られる。

そこで、前年度に引き続き、道徳科の学習を通して、道徳的判断力や人間としてのより良い生き方を目指す道徳的心情を養い、児童自身の生活と結び付けていけるようにしたいと考えた。また、児童の実態と本校の教育目標「進んで考え 心豊かに たくましく生きる児童の育成」を受け、本校では道徳科の四つの視点のうち、「A 主として自分自身に関わること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の三つの視点を重点目標に設定した。「自己を見つめ、自己や他者との関わりを通し、よりよく生きようとする子どもの育成～「特別の教科 道徳」の授業づくりを通して～」を研究主題として設定し、本年度は「自分を大切にし、前向きに努力しようとする子ども」「多様性を認め合い、助け合おうとする子ども」「学校や学級など様々な集団の中で自分の役割を自覚し、進んで役に立とうとする子ども」の育成を目指した。

本年度は、2つの研究の柱「友達との関わりの中で、多面的・多角的に考えるための工夫」、  
「教材と自己をつなぐための工夫」を授業に取り入れ、学習を展開した。また、「温かい人間関係形成の素地づくり」と学習したことを意識できるような「環境づくり」も併せて取り組んでいくことで、道徳的な価値が児童自身の生活につながっていくのではないかと考え、研究をすすめることとした。

## 3 学校教育目標における研究主題の位置付け

学校教育目標

進んで考え、心豊かにたくましく生きる児童の育成

めざす児童像

・ 進んで学ぶ子 ・ 心豊かな子 ・ 元気な子

本年度の取組の重点

- 児童の主体性と学び合いのある授業づくり
- 自己肯定感を育み、誰もが居場所のある学級づくり・学校づくり
- 地域の力を学校教育に生かす体制づくり

学びに関する具体的な取組

- 学習の基盤をつくる

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律・学習習慣の定着（岡山型学習スタンダード、家庭学習スタンダード、ノート検定、自主学習の取組）</li> </ul> <p>○授業の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学び合う」時間と場の確保、質の向上</li> <li>・授業力の向上（校内研究の推進、計画的・意図的・教科横断的な教育課程の実施、指導形態の工夫、自主研修の実施）</li> <li>・ICT機器の積極的な活用（校内研修）</li> </ul> <p>○学級経営の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動や自己決定 ・自己存在感を確認できる機会の設定</li> <li>・自己肯定感を高める取組と工夫</li> <li>・互いを認め合う共感的人間関係の構築</li> </ul> <p>○健やかな身体をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい生活習慣の定着 ・体力づくり</li> </ul>
---

<p>研究主題</p> <p style="text-align: center;">自己を見つめ、自己や他者との関わりを通し、 よりよく生きようとする子どもの育成 ～「特別の教科 道徳」の授業づくりを通して～</p>
---

#### 4 研究主題に迫るために

##### ① 研究主題を反映しためざす児童の姿

本年度は、「自己を見つめ、自己や他者との関わりを通し、よりよく生きようとする子どもの育成～『特別の教科 道徳』の授業づくりを通して～」を研究主題とし、重点目標に挙げた道徳科の内容項目それぞれにおいて、目指す児童像を以下のように設定した。「A 希望と勇気、努力と強い意志」「B 友情、信頼」「C よりよい学校生活、集団生活の充実」の3点を重点目標に設定した。

A 主として自分自身に関すること 「希望と勇気、努力と強い意志」  
自分の目標に向かって、粘り強くやり抜く子ども

B 主として人との関わりに関すること 「友情、信頼」  
多様性を認め合い、助け合うことのできる子ども

C 主として集団や社会との関わりに関すること 「よりよい学校生活、集団生活の充実」  
みんなで協力し合い、よりよい学級や学校を作る子ども

※ 本校では、全体の目指す児童像を受け、各学年部で児童の実態を考慮して、目指す児童像を以下のように設定した。

A 希望と勇気、 努力と強い意志	B 友情、信頼	C よりよい学校生活、 集団生活の充実
---------------------	---------	------------------------

低学年	よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする子ども	身近にいる人に温かい心で接し、親切にしたり、助け合ったりする子ども	約束や決まりを守り、学級や学校の生活を楽しくしようとする子ども
中学年	自分の長所を知り、目標に向かって努力しようとする子ども	相手のことを理解し、助け合おうとする子ども	みんなで協力し合って楽しい学級をつくらうとする子ども
高学年	自分を大切にし、前向きに努力しようとする子ども	多様性を認め合い、助け合おうとする子ども	学校や学級など様々な集団の中で自分の役割を自覚し、進んで役に立とうとする子ども
つくし	自分でできることは自分でやり、よいと思うことを進んで行おうとする子ども	友達のよさを知り、仲良くする子ども	約束やきまりを守ることの大切さを知り、学級や学校の生活を楽しむ子ども

## ② めざす児童の姿に迫るための具体的な手立て

めざす児童像に迫っていくために、本年度は、「友達との関わりの中で、多面的・多角的に考えるための工夫」、「教材と自己をつなぐための工夫」の2つを研究の柱として授業に取り入れ、学習を展開していった。また、「温かい人間関係形成の素地づくり」と学習したことを意識できるような「環境づくり」も併せて取り組んでいくことで、道徳的な価値が児童自身の生活につながっていくのではないかと考え、研究していくこととした。

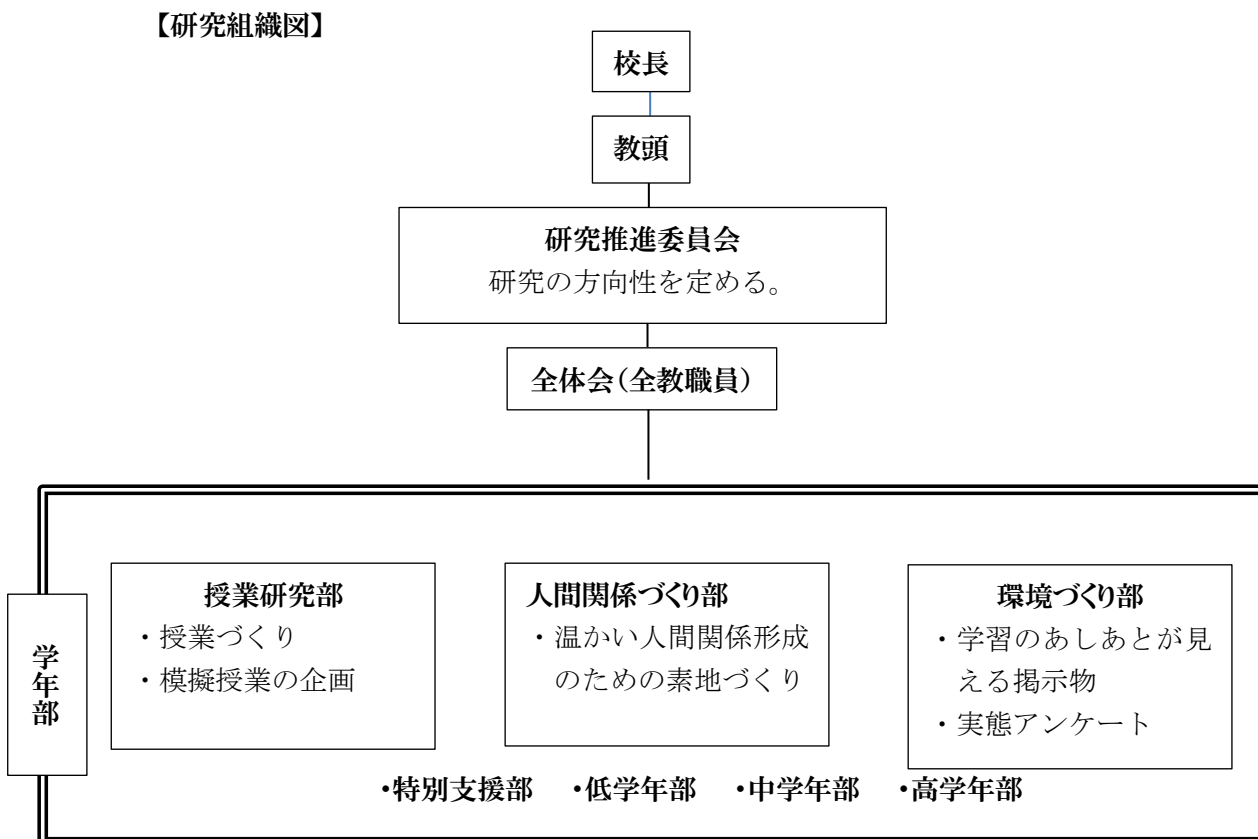
### 【友達との関わりの中で、多面的・多角的に考えるための工夫】

- ・思考ツール（心のものさし、心情ハート、心メーター等）を用い、全体で共有することで、多様な考えに気付くことができるようにする。
- ・中心発問を行う際に、共感的・投影的・分析的に発問することで、ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるようにする。また、児童の意見に対して、揺さぶり、問い返しなどの補助発問をすることで、道徳的価値に迫ることができるようにする。
- ・役割演技を取り入れ、違う価値の考えをもった児童を意図的に指名することで、多様な価値に触れ、多角的に考えることができるようにする。また、役割演技をしていない児童にも問いかけることで、多面的に考えることができるようにする。
- ・児童の発言を道徳的価値ごとに整理し、構造的に板書することで、多面的・多角的に考えることができるようにする。

### 【教材と自己をつなぐための工夫】

- ・導入では、アンケートを事前に行ったり、テキストマイニングを用いて結果を集約したりすることで、集計結果から自分を見つめ直すことができるようにする。
- ・問題場面において、思考ツールを用いて児童の考えを表すように促すことで、教材を通して考えた道徳的価値に照らし合わせて自分を見つめ直すことができるようにする。
- ・児童の経験を想起させることで、ねらいとする道徳的価値を自己の生活に関連付けて捉え、今後の実践意欲につなぐことができるようにする。
- ・振り返りの視点を提示することで、学習したことを自分の行動に結び付け、道徳的実践意識の向上を図るようにする。

### ③ 研究組織



## 5 研究の経過

4月6日	第1回 研究推進委員会 研究主題の設定 研究組織検討 講師の決定
4月12日	講師依頼 IPU 環太平洋大学 次世代教育学部教育経営学科 副学科長 准教授 伊住 継行先生
4月18日	第2回 研究推進委員会 研究主題・研究組織・目指す児童像・研究の柱 全体校内研修会計画・指導案の形式・授業公開の計画・決定
5月10日	第1回 授業研究部会、人間関係づくり部会、環境づくり部会 部長決定 活動方針の検討・決定
5月18日	第1回 校内全体研修会 「道徳科」の授業づくりについて 講師 IPU 環太平洋大学 次世代教育学部教育経営学科 副学科長 准教授 伊住 継行先生
6月21日	第2回 授業研究部会、人間関係づくり部会、環境づくり部会
6月23日	第3回 研究推進委員会 第2・6学年の指導案検討

6月30日	<p>第2回 校内全体研修会  第2学年研究授業 授業者 小西 恭弘  第6学年研究授業 授業者 山根 千佳  指導助言者：IPU 環太平洋大学 次世代教育学部教育経営学科 副学科長  准教授 伊住 継行 先生</p>
9月 5日 6日	第3回 授業研究部会、人間関係づくり部会、環境づくり部会
9月15日	第4回 研究推進委員会 第1・4学年の指導案検討
9月21日	<p>第3回 校内全体研修会  第1学年研究授業 授業者 船田 紀子  第4学年研究授業 授業者 肥田 可世  指導助言者：IPU 環太平洋大学 次世代教育学部教育経営学科 副学科長  准教授 伊住 継行 先生</p>
11月14日 15日	第4回 授業研究部会、人間関係づくり部会、環境づくり部会
11月21日	第5回 研究推進委員会 第3・5学年の指導案検討
11月30日	<p>第4回 校内全体研修会  第5学年研究授業 授業者 難波 美帆  指導助言者：IPU 環太平洋大学 次世代教育学部教育経営学科 副学科長  准教授 伊住 継行 先生</p>
12月 7日	<p>第5回 校内全体研修会  つくし1・2組 第3学年研究授業 授業者 板谷 理沙</p>
1月20日	<p>第6回 校内全体研修会  第3学年研究授業 授業者 田中 恭平  指導助言者：IPU 環太平洋大学 次世代教育学部教育経営学科 副学科長  准教授 伊住 継行 先生</p>
2月上旬	第6回研究推進委員会 研究の反省と課題 来年度の研究 研究集録製本
2月下旬	第7回研究推進委員会 研究のまとめ・来年度の研究主題について
3月上旬	校内研究全体会 今年度のまとめ・来年度に向けて